

平成16(2004)年度 社会福祉法人あかつき福祉会
事 業 報 告 書

社会福祉法人あかつき福祉会

(1) 総括事項

平成16年度は、地方自治法の改正により実施された公の施設の指定管理者として、箕面市立障害者福祉センターささゆり園（身体障害者デイサービス事業含む）の代行経営を開始した。

また、法人独自事業として知的障害者デイサービス事業の開始など新たな事業を加え、実施した事業は、支援費対象事業20事業、その他の事業（大阪府・箕面市委託）6事業の合計26事業であった。

特筆すべき事業内容

・（仮称）地域生活総合支援センター設立準備室の設置

生活支援事業と活動支援事業との連携を強化すべく、「（仮称）地域生活総合支援センター設立準備室」を開設し、そのあり方の検討を行った。その中で以下の三つの重要な課題事項が浮かび上がった。

ア．医療との連携及び医療的ケアのあり方

イ．登録ヘルパーの確保

ウ．業務マニュアルの整備

・箕面市立障害者福祉センターささゆり園の管理運営の開始

指定管理者の指定を受け4月より管理運営を開始し、新たに身体障害者デイサービス事業の開始を行った。身体障害者デイサービスにおいては、医療的ケアを要する重度の障害者を受け入れるための看護師の配置、入浴サービス、クックチル方式での食事の提供等新たな業務が開始された。また、家庭での入浴が困難なケースへのサービスとして、短時間利用の入浴サービスを開始するなど、箕面市における新たな障害者福祉施策の一躍を担うことが出来た。

・箕面市立あかつき園及び箕面市立ワークセンターささゆりの指定管理者の指定

障害者福祉センターささゆり園に次いで、あかつき園及びワークセンターささゆりの指定管理者の指定（5年間）を受けることとなった。今回の指定については、公募ではなく混乱を避けることを目的に「現行の事業実施者」が指定管理者に指定されたが、5年後は一般公募されることになっており、いよいよ本格的な競争原理が導入される事となった。

・地域との連携及び情報発信

ア．協働農園レインボープランの実施

西南小地区福祉会（箕面市社会福祉協議会）と協働で作業を実施する農園を開設した。また、

その活動はノーマライゼーション社会への希望の架け橋となるよう「レインボープラン」と命名した。農園作業で共に汗を流し、穫れた野菜で交流収穫祭を行った。障害者、健常者という感覚ではなく、共に「働く喜び」「ふれあう喜び」「育て、収穫する喜び」を実感し、地域住民との交流の輪が広がった。

イ．インターネット・ホームページ（以下、「HP」という。）の開設

福祉サービス向上委員会（CI推進部会）の活動がHP開設につながった。今後、このHPを有効に活用し、様々な情報発信を行いたい。

ウ．関係機関との連携強化に向けた勉強会の開催

障害者施策を担う行政担当課及び事業者（社協・事業団・当福祉会）の職員有志による勉強会（つるかめざん）を立ち上げ、それぞれの役割の理解と障害者施策に関する情報の共有を目的に勉強会を開催した。障害者市民を支援する関係機関の連携により、箕面市全体の障害者市民に対する社会資源を有効かつ効率的に運営することを目指すものである。

今後に向けて

支援費制度が開始されわずか1年半しか経っていない平成16年10月に「今後の障害保健福祉施策について（改革のグランドデザイン案）」が示され、各地で反対集会等が開かれる中、平成17年2月10日に第162回通常国会に「障害者自立支援法案」が提出された。同法案に関連して改正される法律は、社会福祉法・知的障害者福祉法・身体障害者福祉法・精神保健福祉法等37法律に及ぶものであり、まさに大改革である。当福祉会が、この嵐の大海を乗り切るには、いかなる苦難があろうとも着実にノーマライゼーションの社会の実現という理念を堅持しつつ、経営改革プログラムを進めることである。なかでも、今年度指定管理者制度の導入に伴い当福祉会の定款が変更され「施設長の市長承認」が削除されたことは、これからの自主自立に向けた大きな一歩となった。

また、今年度は、大変残念なことではあるが4名の利用者が他界されており、正に一人ひとりの人生と向き合い命を支えている我々にとっては、命の尊さを実感すると共に、自分らしく人生を全うする事の困難性を痛感する出来事であった。このことをとおして彼らに教えられたことは、限りある時間の中で真摯に支援を問い直す事であった。

次年度も、多様な課題が山積されているが、今を生きる者の責務として職員一同が一丸となって、これから生まれくる子どもたちのためにもノーマライゼーション社会の実現に向け、一步一步着実にその歩みを進めて行きたい。

(2) 事業別報告

理事会・評議員会開催状況

・理事会開催状況(全3回開催)

第1回理事会

- *開催日時：平成16年 5月27日(木) 午前10時~同11時20分
- *開催場所：箕面市立ワークセンターささゆり 2階会議室
- *案件：第1号議案 社会福祉法人あかつき福祉会理事選任について同意を求める件
第2号議案 社会福祉法人あかつき福祉会評議員選任について同意を求める件
第3号議案 平成15(2003)年度社会福祉法人あかつき福祉会決算について認定を求める件
第4号議案 社会福祉法人あかつき福祉会職員給与規則の一部改正の件
(以上、全案件につき同日可決、承認)

第2回理事会

- *開催日時：平成16年10月25日(月) 午前10時~同10時20分
- *開催場所：箕面市立ワークセンターささゆり 2階会議室
- *案件：第5号議案 社会福祉法人あかつき福祉会評議員選任について同意を求める件
(以上、全案件につき同日可決、承認)

第3回理事会

- *開催日時：平成17年3月29日(火) 午前10時~同11時35分
- *開催場所：箕面市立ワークセンターささゆり 2階会議室
- *案件：第6号議案 平成16(2004)年度社会福祉法人あかつき福祉会補正予算(第1号)の件
第7号議案 平成17(2005)年度社会福祉法人あかつき福祉会事業計画及び予算の件
第8号議案 社会福祉法人あかつき福祉会定款変更について同意を求める件
第9号議案 社会福祉法人あかつき福祉会職員給与規則一部改正の件
第10号議案 社会福祉法人あかつき福祉会支援職員就業規則一部改正の件
第11号議案 社会福祉法人あかつき福祉会臨時職員就業規則一部改正の件
報告第1号 社会福祉法人あかつき福祉会職員の再任用に関する要綱制定の件

- 報告第 2号 箕面市立あかつき園及び箕面市立ワークセンターささゆりの指定管理者の指定の件
報告第 3号 日本財団助成事業の件
(以上、全案件につき同日可決、承認)

・評議員会開催状況(全2回開催)

第1回評議員会

- *開催日時:平成16年 5月25日(火) 午前10時~同11時15分
*開催場所:箕面市立ワークセンターささゆり 2階会議室
*案件:報告第1号 社会福祉法人あかつき福社会理事長等選任について(報告)
第1号議案 社会福祉法人あかつき福社会理事選任について承認を求
件
第2号議案 平成15(2003)年度社会福祉法人あかつき福社会決算認
定について同意を求める件
第3号議案 社会福祉法人あかつき福社会職員給与規則の一部改正につ
いて同意を求める件
(以上、全案件につき同日可決、承認)

第2回評議員会

- *開催日時:平成17年3月25日(金) 午前10時~同11時45分
*開催場所:箕面市立ワークセンターささゆり 2階会議室
*案件:報告第 2号 平成16(2004)年度社会福祉法人あかつき福社会評議
員選任について
第 4号議案 平成16(2004)年度社会福祉法人あかつき福社会補
正予算(第1号)について同意を求める件
第 5号議案 平成17(2005)年度社会福祉法人あかつき福社会事業
計画及び予算について同意を求める件
第 6号議案 社会福祉法人あかつき福社会定款変更について同意を求
める件
第 7号議案 社会福祉法人あかつき福社会支援職員給与規則一部改正
について同意を求める件
第 8号議案 社会福祉法人あかつき福社会支援職員就業規則一部改正
について同意を求める件
第 9号議案 社会福祉法人あかつき福社会臨時職員就業規則一部改正
について同意を求める件
報告第 3号 社会福祉法人あかつき福社会職員の再任用に関する要綱
制定の件
報告第 4号 箕面市立あかつき園及び箕面市立ワークセンターささゆ
りの指定管理者の指定の件
報告第 5号 日本財団助成事業の件
(以上、全案件につき同日可決、承認)

箕面市立あかつき園

概要報告

本人支援プログラムに基づき、昨年度に引き続き日中活動支援を中心とする第1グループ、福祉的就労支援を中心とする第2グループに分かれて活動の提供を行った。

また、家庭やグループホームでの生活に対するサービスコーディネートのバックアップの機会が増え、トータル的な生活支援のさらなる進化が見られた。そして、通過施設としての役割においては関係機関との連携の基、4名の利用者に対しそれぞれの将来展望やニーズに基づく移行支援プログラムを実施し、結果的にスムーズな移行に繋がった。

主な活動内容

ア 授産活動の継続実施

箕面市から委託を受けている「製袋作業」、箕面手をつなぐ親の会が運営する事業所「つながり工房ふるる」のバックアップとしての「ケーキ製造」、箕面市都市公園緑地、児童遊園の維持管理活動としての「公園清掃」、また、社会貢献的な授産活動として「リサイクル手漉きはがき等の製造」、「空き缶リサイクル」なども継続的に取り組んだ。

イ 余暇的活動、健康活動

利用者の興味関心を大切にして、音楽、創作などの文化活動や料理活動、近隣図書館での活動を実施した。また、専門家講師の指導による利用者の感性に働きかける活動として、音楽療法、音楽レクリエーション、ダンス活動を実施し、利用者の豊かな感情表現や情緒的な安定に繋がった。

健康活動としては、近隣の散策やプール及び市内スポーツセンターを活用しての体力作りのほか、栄養士による栄養教室を実施して利用者自らの健康への意識の向上を図った。

ウ 地域との交流活動及び市民への啓発

今年度も継続して西南老人デイサービスセンターの活動プログラムに定期的に参加させていただき、双方の利用者の関係も深まりつつある。

また、6月からは西南小地区福祉会と日々交流をはかる場として「協働農園レインボープラン」を開始し、そこから西南幼稚園児との芋掘り会や「交流収穫祭」が開催されるなど地域住民との交流の輪が広がった。

さらに、絵画活動の一環で絵画展覧会（11月/ライフプラザ）の開催や絵画カレンダーの販売などの継続実施により、利用者の豊かな個性を表現した絵画が知的障害者への理解の広がりにも寄与した。

エ （財）箕面市障害者事業団の実習への参加

就労支援の一環として、また経験の幅を広げる機会として、（財）箕面市障害者事業団のリサイクルセンターや喫茶るうぶなどでの職場体験実習に31名の利用者が参加した。

オ 支援スキルの向上

毎年囑託医及び相談員による職員研修を実施してきたが、今年度はこれに加えてご家族向けの研修を行い、延べ30名のご家族が参加され利用者の障害特性に対する理解に繋がった。

カ 進路支援

ご本人の将来展望やニーズに基づく進路先への移行を目的に進路支援プログラムを実施し、市内知的障害者デイサービスへ2名、市内作業所へ1名、市外入所更生施設へ1名それぞれ移行された。

・今後に向けて

通過施設としての当園の役割は、将来の進路先を念頭に入れた利用者一人ひとりに応じた活動支援プログラムの実践と地域に根ざした施設作り、さらには進路先への円滑な移行とアフターフォロー、そして毎年養護学校からの卒業生を受け入れる立場として、障害のある人の一生の生活を見据えた学齢期から成人期にかけての一貫した支援プログラムの構築である。

さらに重い障害のある方たちが、住み慣れた地域で主体的な生活が営めるよう、総合的な支援システムの構築に向けた実践を重ねると共に、これまで以上に地域社会や各機関との連携を図りつつ障害者市民の生活の質の向上に寄与できるよう努めたい。

・主な年間行事

- 4月 = 新利用者歓迎会
- 5月 = 園外活動（五月山 = 第2グループ、2回に分けて実施）
- 6月 = 健康診断（3グループに分けて実施）
- 7月 = 七夕バイキング
バーベキュー大会（第2グループ、2回に分けて実施）
- 8月 = 昆虫館サマーフェスタにて紙すき体験コーナーを実施
納涼祭
西南ジャンボリーに参加
- 10月 = 園外活動（椎茸センター、関西スポーツセンター、万博公園 = 第1グループ）
園外活動（信貴山のどか村、神戸ベイクルーズ = 第2グループ）
- 11月 = レインボーラン交流収穫祭
絵画展覧会（ライフプラザ）
園外活動（グリコピア神戸 = 第1グループ）
園外活動（東映太秦映画村、京菓子司総本家よし廣 = 第2グループ）
- 12月 = 忘年会（チーム別）
1月 = もちつき会
2月 = 健康診断（3グループに分けて実施）

・月間行事

- ア 健康相談（年12回 内1回は全職員対象、1回はご家族対象の研修会を実施）
- イ TEACCH相談（年11回 内1回は全職員対象、1回はご家族対象）

の研修会を実施)

ウ プール活動	(年31回)
エ 音楽療法	(年12回)
オ 音楽レクリエーション	(年17回)
カ ダンス活動	(年20回)
キ 体重測定	(年12回)
ク 西南老人デイとの交流活動	(年19回)
ケ ドッグセラピー	(年2回)

・特記事項

- ア 10月 男性利用者1名退所(不慮の事故によりご逝去)
- イ 11月 男性利用者1名退所(市外知的入所更生施設に入所)
- ウ 3月 男性利用者3名退所(市内知的障害者デイサービスセンターへ2名、市内作業所に1名移行)

・箕面市立あかつき園在籍者状況

ア 平成16年度 平成17年3月31日現在

項目	平均年齢	平均在籍年数	平均出席率
女性(25人)	25.8歳	7.2年	94.2%
男子(23人)	29.8歳	10.3年	95.4%
全体(48人)	27.7歳	8.7年	94.8%

イ 平成15年度 平成16年3月31日現在

項目	平均年齢	平均在籍年数	平均出席率
女性(24人)	25.1歳	6.4年	94.8%
男子(26人)	32.2歳	12.4年	94.1%
全体(30人)	28.4歳	9.5年	94.5%

・障害状況(平成17年3月31日現在)

ア 療育手帳

A	44人
B1	4人
B2	0人

イ 身体障害者手帳

1級	2人	4級	0人
2級	1人	5級	0人
3級	2人	6級	1人

ウ 支援費区分

区分A	41人
区分B	7人

わんすてっぷ（知的サービス）運営事業 [新規・あかつき園併設事業]

・概要報告

今年度は、光明の郷ケアセンターが介護保険サービス事業との一体運営を要件とした指定管理者制度に移行され、同所での知的障害者サービス事業は撤退を余儀なくされた。新たに重度障害者市民自立生活支援棟「わんすてっぷ」を、その実施場所として本事業を開設した。

その結果、昨年度の利用契約者の内ささゆり園に開設された身体障害者サービスやあかつき園へそれぞれ移行された方（計4名）以外の全利用契約者が継続契約されるとともに、新たにあかつき園から移行された3名を加え、延べ利用契約者数は16名、延べ利用人数は昨年度を上回り2,467人となった。これは、長年築き上げてきた利用契約者及びその家族との信頼関係によるところであるとともに、環境の変化への対応が困難な利用契約者の心に常に寄り添ってきた職員の日々の努力が報われた結果であると自負したい。

ア 進路支援への貢献

「わんすてっぷ」での事業実施は、市内における新たな日中活動の場の創出となり、結果的にあかつき園及びワークセンターささゆりからの進路先が拡大し、あかつき園から3名の利用契約者や箕面市障害者雇用支援センターへの待機者を受け入れることに繋がった。

イ 支援費収入のみでの経営

本事業は、あかつき福祉会による設置運営となり、当然箕面市からの補助は一切なく支援費収入での事業運営となったが、初年度の支援費収入は見込額を3.4%上回ることができ、安定経営に向け着実な一步を踏み出せた。

今後、サービスの質的向上をより一層図るとともに、経営的視点も更に強化し本事業を発展させていきたい。

ウ 組織間の連携強化

同一敷地内にある、あかつき園及びワークセンターささゆりの活動メニューや行事などの共有化を通じて組織間の連携が強化されるとともに、サービスの活動メニューの多様化にも繋がり、利用者の多様なニーズに、より幅広く対応できることとなった。

・主な活動内容

ア 創作活動

イ 音楽プログラム、ダンス活動

ウ 所外活動

エ 健康活動

a 機能訓練及び作業療法

b 精神障害者相談員による定期訪問及び相談指導（利用者の申請に基づく）

c 健康診断

d スポーツ活動（稲スポーツセンターにて）、水治訓練

オ 社会適応活動

カ 施設間交流（あかつき園・ワークセンターささゆり・身障デイ）

わんすてっぷ (サービス提供実績)

単位：人

月	開所日数	延べ利用者数	サービス提供実績					1日あたりの利用者数
			6時間以上	4～6時間	4時間未満	給食サービス	送迎サービス(片道1回)	
4月	21日	218	211	7	0	217	224	10.4
5月	18日	200	197	3	0	200	198	11.1
6月	22日	211	202	9	0	211	237	9.6
7月	21日	204	196	7	1	204	266	9.7
8月	22日	205	201	4	0	205	261	9.3
9月	20日	205	201	4	0	205	222	10.3
10月	20日	212	194	7	11	199	220	10.6
11月	20日	197	189	5	3	193	189	9.9
12月	19日	214	202	11	1	200	209	11.3
1月	19日	193	185	8	0	193	195	10.2
2月	19日	205	189	15	1	203	187	10.8
3月	22日	203	191	12	0	193	248	9.2
合計	243日	2,467	2,358	92	17	2,423	2,656	122.3
平均	20.3日	205.6	196.5	7.7	1.4	201.9	221.3	10.2

主な活動内容

(1) 文化創作活動

- * 音楽活動：ボランティア講師によるプログラム、カラオケ
- * 創作活動：さをり織り、手芸、描画
季節に応じた創作活動（七夕飾り等）

(2) 健康支援活動

- * 健康診断（医療保健センター）
- * 機能維持訓練：個別メニュー
- * 精神保健福祉士訪問指導・相談（月1回）
- * 嘱託医訪問指導・相談（月1回のあかつき相談日に適時実施）
- * 講師指導によるダンス（月1回のあかつき園実施時に適時参加）

(3) 所外活動

- * ウォーキング、プールなど
- * 園芸（サツマイモ、スイカ、なす、シシトウ、ミニトマトなど）
- * 身障デイサービスとの交流会
- * 社会見学（大阪府民牧場、ぬくもりの郷）

その他特記事項

- (1) 個別支援計画策定
- (2) 箕面市精神保健福祉士との連携
* 精神障害を併せ持つ利用者への支援の輪の拡大
- (3) 利用者の移行に係る連携
- (4) 社会資源（主に、ガイド・ホームヘルパー）の活用に係るコーディネート
- (5) 利用者1名がご逝去される。（2/28日）

箕面市立ワークセンターささゆり運営事業

・概要報告

平成16年度は、前年度よりスタートした支援費制度が2年目を迎え、利用者・家族の社会資源活用への意識が高まる中、当福祉会の理念である、利用者主体の地域に根ざしたサービス提供事業者として、利用者ニーズに寄り添うべくサービスの提供に努めた。

なお、活動提供においては、利用者ニーズに基づくチーム編成を行うとともに、活動内容によって、チームを越えての横断的支援に努め、併せて、社会との関係性の強化を意識しつつ活動支援サービスを提供した。

・主な活動内容

ア 社会との関係性のなかで「働くこと」の充実

今年度も引き続き、働く活動を施設内に留まることなく、市民との交流を目指し、地域のスーパーのご協力の下、店頭をお借りしての製品販売活動や委託契約に基づくチラシ配り等の活動の充実を目指した。販売活動においては、利用者が主体的に販売や販売計画に参画する場面を設定することで、充実感を得、新しい顧客に巡り会える喜びを実感できた。

イ 利用者を主体・中心としたサービスの提供

当施設においては、障害福祉分野における転換期を迎えつつも、利用者との契約に則り、事業者の本分である、利用者サービスの向上を目標に力を尽くした。

サービス提供にあたっては、何よりスケジュール化を重視し、明確な見通しに基づき、計画的・効率的なサービス提供の実現を図った。

また、適正な規模を考え、サービス内容に応じて適宜少人数グループにおけるサービスの提供を図り、柔軟かつ多様な環境の構築に努めつつ、サービス提供後は、可能な限り利用者自身の意見の確認を行い、次回サービスへのフィードバックにより、顧客満足度の向上に努めた。

ウ 市民ボランティアとの協働

当施設の公共性、公益性の観点から、プール、音楽療法、文化創作、健康維持増進、コンサートなどの活動場面に、市民ボランティアを積極的に受け入れた。

中でも、前年度より健康維持増進サービスとして継続参加している、健康日本21に基づく一般市民向け企画である「みのおウォーキング」に積極的に参加し、市民と利用者の交流をとおり、相互理解の促進、ひいては、障害者市民に対する、啓蒙・啓発の機会の一助とした。参加される市民と一緒に歩き、同じ風を感じながらの時間の共有は、仲間として自然に受け入れてもらえる場面もあり、「継続は力」を実感した。

しかしながら、前年度に比して、ボランティアの参加実績が減少する場面もあったため、今後継続して共に支え合う土壌作りに取り組んでいきたい。

エ 利用者を主体とした移行支援

今年度も、養護学校卒業者の受け入れ機能を果たすため、3名の利用者に身体障

害者デイサービスに円滑に移行していただくための支援を行った。

しかしながら、依然進路移行先が十分確保されていない課題があり、この課題を共有するため、あかつき園・ワークセンターささゆりの両保護者会を中心として勉強会を開催した。時に、障害福祉課を含めての勉強会を実施し、一定の方向性を見いだそうとしたが、折からの障害者自立支援法案の行方を見定める必要があるため中止となり、次年度の緊急の課題となっている。

・今後に向けて

身体障害者デイサービスに移行支援した2名の利用者が、相次いで他界された。

非常に悲しくつらい出来事の中で、その命の尊厳に対して、我々は、悔いのない人生を、自分の足で歩いて戴くために日々の真摯な支援でしか答えられないことを再確認し、今後の支援の充実に生かしていきたいと考える。

また、時代の流れは、三位一体改革、障害者自立支援法案、指定管理者制度の導入など、社会情勢の変化に伴い、事業体そのものの変革・改革が求められているが、その中においても、常に障害者市民の視点に立って、障害状況に関わらず、「このまちで自分らしく暮らしたい」思いを支えうる事業者として、組織力を向上させ市民の信頼を勝ち得る事業者として邁進していきたい。

・主な年間行事

4月 = 入所式

5月 = 健康診断

6月 = 健康診断

7月 = 消防訓練

夏季プール（三田ネスパ4回）

8月 = 夏季プール（三田ネスパ1回）

納涼祭

西南ジャンボリーに参加

9月 = 所外活動（浪速餃子スタジアム・JR京都駅・難波パークス）

10月 = 所外活動（宝塚ガーデンフィールズ・梅田ジョイポリス・鶴見緑地公園）

11月 = 所外活動（阪大学園祭）

12月 = 所外活動（インスタントラーメン発明記念館）・忘年会

1月 = 所外活動（インスタントラーメン発明記念館）・もちつき会

2月 = 健康診断

3月 = 消防訓練・送別会

・月間事業

ア 健康相談 (年12回)

イ プール活動 (年21回)

ウ ニコニコキャンパス（創作活動一部ボランティア講師あり） (年44回)

エ プレ音楽療法（ボランティア講師あり） (年41回)

オ 作業療法士による機能訓練 (年24回)

カ 体重測定 (年12回)

キ 箕面ウォーキング (年12回)

・箕面市立ワークセンターささゆり在籍者状況

ア 平成16年度

平成17年3月31日現在

項目	平均年齢	平均在籍年数	平均出席率
女性(12人)	30.1歳	5.0年	89.9%
男子(17人)	28.2歳	6.9年	93.5%
全体(29人)	28.9歳	6.1年	92.1%

イ 平成15年度

平成16年3月31日現在

項目	平均年齢	平均在籍年数	平均出席率
女性(13人)	30.6歳	4.5年	89.6%
男子(17人)	27.9歳	6.5年	92.0%
全体(30人)	29.1歳	5.6年	90.9%

・障害状況

ア 身体障害者手帳

1級	19人
2級	8人
3級	2人

イ 療育手帳

A	25人
B1	2人
B2	1人

ウ 支援費区分

区分A	28人
区分B	1人

・ささゆりホール利用状況

平成17年3月31日現在

項目		平成16年度	平成15年度	対前年度比率
一般利用	利用人数(名)	152	525	29.0%
	利用時間数(時間)	15:00	197:00	7.6%
関係者利用	利用人数(名)	2,191	1,746	125.5%
	利用時間数(時間)	890:30	1,275:00	69.8%
合計	利用人数(名)	2,343	2,271	103.2%
	利用時間数(時間)	905:30	1,472:00	61.5%

箕面市立障害者福祉センターささゆり園運営事業

・概要報告

障害者市民とその家族の長年の要望であった、医療的ケアが必要である市民の利用可能な「身体障害者デイサービス」の実施を大きな目的として、ささゆり園が再整備され平成16年4月にリニューアルオープンされた。また、事業実施にあたっては、同時期に地方自治法の改正に伴い、ささゆり園に指定管理者制度が導入され、当福祉会が指定管理者として運営することとなった。

・身体障害者デイサービス運営事業

ささゆり園再整備後の主要事業として位置付けられ、平成16年4月より事業を開始した。利用契約者は、あかつき園より1名、ワークセンターささゆりより3名、知的デイサービスより3名、わんすてっぷ（試行デイサービス）より5名、養護学校新規卒業者1名、在宅者1名のそれぞれの進路先として計14名、入浴中心の短時間デイサービスは11名でスタートし、延べ利用人数は日中デイサービスは2,274名、入浴中心短時間デイサービスは380名となり、いずれも当初見込みを上回る数字であった。なお、今年度は、事業開始初年度ということもあり、これから事業展開を図っていく為の土台固めの1年と位置付け、支援体制の整備・確立に重点を置き、以下の取り組みを行った。

- ア デイサービスにおける活動方針の明確化およびそれに沿った活動の展開
- イ 安全で快適な入浴サービスの提供
- ウ 健康支援の位置づけの明確化（医療的ケアを含む）

・児童デイサービス推進事業（放課後教室）

本事業は、大阪府の補助金制度を活用し、箕面市単独事業として、他市に先駆けて実施してきた経緯がある。本年度も利用者8名、支援者5名の体制で、毎週火・木の午後2時～午後5時の間に実施した。

年間計画を基に、創作、クッキング、スポーツ等を実施し、放課後の一時を家族以外、家庭以外で同年代の人達や他人と過ごすことは発達過程において、非常に有意義なことであり、学童保育の対象外とされる中高生のニーズが高い事業である。そのニーズに少しでも応える為には、現在のような不規則な勤務形態（週2日・3時間）では支援者の確保が困難であり、多様な障害状況の利用者に対し、1人ひとりに寄り添った支援をしていくには、安定的に支援者を確保した上で、支援者の日々の研鑽が不可欠であるとともに、支援力の向上が課題でもある。

・障害者社会参加促進事業

本事業として、第1・3月曜日に茶道教室、第2・4月曜日に華道教室を実施した。成人された障害者市民の余暇的要素が強い本事業は、自分の趣味を生かす場として、教室の開催日を心待ちにされている様子も見受けられたが、茶道教室については1名の参加者に止まっており、新規参加者を募るために年度途中において再度市広報紙「もみじだより」の掲載や市役所、ライフプラザ等でのポスターの掲示を実施した。平成17年度においても、再度ポスター掲示箇所の増加や関係機関への案内文発送等を試みたい。

・ボランティア育成事業

ア 中級手話講習会

初級手話講習会として、西南公民館主催で5月～7月に開催された後を受けて、聴力障害者協会のご協力の基、9月30日～12月16日の毎週木曜日（計12回）に開催した。

当初、初級講習会修了者20名、市広報紙「もみじだより」を見て希望された方11名、計31名の希望者があり、手話を学びたいという市民のニーズは高いと思われる。しかしながら、20名で開始した講習会は最終13～10名と減少した。要因としては、いろいろ考えられるが、平成17年度は、反省点を基に西南公民館とささゆり園が、それぞれ独自に初級講習会を開催し、広く市民のニーズに答えて行くこととしている。また、講習会終了後も何らかの形で手話と関わってもらう必要があことから、手話サークルへの入会等も働きかけていきたい。

イ 初級音訳講習会

ささゆり声の会のご協力の基、10月8日～2月18日の第2・4金曜日（計10回）に開催した。

手話に比べると、音訳というものがまだ広く市民には認知されていないようで、受講希望者は15名に止まった。

音訳も手話同様、初級講習会だけでは視覚障害者市民への支援者に足る実践力は身に付かない為、17年度4月から中級講習会を計画し、初級講習会終了者の内8名が参加される予定である。

初級と中級の一連の講習会により、実践力を身に付け1人でも多くの人が支援者となって活躍していただきたい。

・貸館事業

障害者団体、ボランティア団体及び近隣の市民団体の活動拠点として、会議室やプレールームの無料開放、各団体専用のロッカーや倉庫の設置等を行い、ささゆり園を有効活用していただいた。

・終わりに

身体障害者デイサービスにおいては、当初14名の利用者でスタートした日中デイサービスであるが、1年間の内に2名が亡くなるという悲しい出来事もあり、改めて「命を守る」ことの難しさを知ることとなった。「生きる」ことに懸命である人達が「活動する」とはどういうものなのか。当デイサービスにおける永遠の課題であるようにも思えるが、お二人が生きてこられた道を振り返りつつ、少しでも何らかの答えが出せるよう努めたい。

また、ささゆり園の各事業を実施するに当たり、平成14年度（平成15年度は改修工事中）の実施状況を踏襲するに止まった感は否めない、未実施となってしまった事業（市民交流事業）もあった。

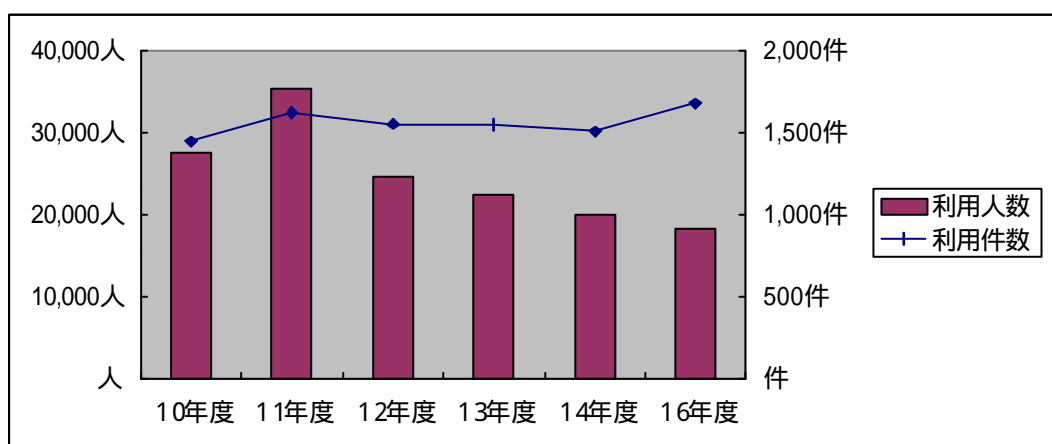
障害者市民やその家族、又は、各ボランティア団体や市民が、ささゆり園に望まれるニーズに答えるべく、17年度は創意工夫されている近隣の障害者福祉センター等を調査研究し、サービス向上に努めたい。

ささゆり園利用状況

1. 開館日数 322 日
2. 利用件数 1,679 件
3. 利用人数 18,282 人
4. 1日あたり利用件数 5.2 件
5. 1日あたり利用人数 56.8 人
6. 1件あたり利用人数 10.9 人
7. 事業別利用状況

事業	内 訳	件数(件)	人数(人)	件数比	備考
児童デイサービス 推進事業	放課後教室	93	609	5.5%	人数は利用者のみ (講師等は含まず)
	障害者社会参加 促進事業	茶道教室	14	16	
	華道教室	16	79	1.0%	
	小	30	95	1.8%	
ボランティア 育成事業	中級手話講習会	12	164	0.7%	
	初級音訳講習会	10	95	0.6%	
	小	22	259	1.3%	
貸館事業	障害者団体	501	7,540	29.8%	
	ボランティア	473	4,024	28.2%	
	スポーツ&レクリエーション	233	2,698	13.9%	
	外郭・行政関係	61	1,036	3.6%	
	自治会その他	63	1,674	3.8%	
	IT室	203	347	12.1%	
	貸館事業 計	1,534	17,319	91.4%	
合 計		1,679	18,282	100.0%	

平成10年度～16年度 利用人数および利用件数の推移



	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	16年度
開館日数	305日	308日	308日	296日	309日	322日
利用人数	27,711人	35,516人	24,758人	22,458人	19,916人	18,282人
利用件数	1,448件	1,626件	1,555件	1,546件	1,508件	1,679件
1日あたり利用人数	90.9人	115.3人	80.4人	75.9人	64.5人	56.8人
1日あたり利用件数	4.7件	5.3件	5.0件	5.2件	4.9件	5.2件

平成15年度は改修工事期間を含むため除外した。

身体障害者デイサービス提供実績

(1) サービス提供時間 (9時00分~15時30分)

単位:人

月	開所 日数	延べ 利用者数	サービス提供実績						1日あたりの 利用者数
			6時間以上	4~6時間	4時間未満	給食サービス	送迎サービス (片道1回)	入浴サービス	
4月	21日	231	212	13	6	180	433	59	11.0
5月	18日	182	168	10	4	151	345	47	10.1
6月	22日	221	210	6	5	185	422	56	10.0
7月	21日	224	208	10	6	185	420	58	10.7
8月	22日	183	167	10	6	158	343	51	8.3
9月	20日	192	176	12	4	152	362	59	9.6
10月	20日	190	170	19	1	151	363	59	9.5
11月	20日	184	173	4	7	153	359	52	9.2
12月	19日	182	171	7	4	147	354	55	9.6
1月	19日	147	141	4	2	140	288	41	7.7
2月	19日	155	136	14	5	134	295	43	8.2
3月	22日	183	172	6	5	149	347	54	8.3
合計	243日	2274	2104	115	55	1885	4331	634	112.2
平均	20.3日	189.5	175.3	9.6	4.6	157.1	360.9	52.8	9.4

(2) サービス提供時間 (16時00分~18時00分)

単位:人

月	開所 日数	延べ 利用者数	サービス提供実績						1日あたりの 利用者数
			6時間以上	4~6時間	4時間未満	給食サービス	送迎サービス (片道1回)	入浴サービス	
4月									
5月									
6月	22日	21			21		32		1.0
7月	21日	40			40		65		1.9
8月	22日	39			39		63		1.8
9月	20日	43			43		72		2.2
10月	20日	40			40		66		2.0
11月	20日	40			40		64		2.0
12月	19日	40			40		66		2.1
1月	19日	39			39		65		2.1
2月	19日	34			34		55		1.8
3月	22日	44			44		74		2.0
合計	204日	380	0	0	380	0	622	0	18.7
平均	20.4日	38.0	0.0	0.0	38.0	0.0	62.2	0.0	1.9

主な活動内容

(1)健康活動

- * バイタルチェック・エクササイズ
- * 作業療法士訪問指導・相談
- * 嘱託医訪問指導・相談
- * 車椅子製作巡回相談
- * 健康診断（医療保健センター）
- * リラクゼーション・フットパス・エアマット・トランポリン・シートブランコ・プラネタリウム
- * プール・農園・近隣散策
- * ダンス活動・ドックセラピー（あかつき園との共有プログラム）

(2)創作活動

- * 組みひも・さをり織り・手芸・描画・手漉きはがき作り
- * 季節を感じる創作（七夕飾り・クリスマス飾り付け・年賀状作り・凧作り）

(3)文化活動

- * ボランティア講師指導による音楽プログラム
- * コンサート鑑賞・音楽鑑賞・演芸会鑑賞・歌劇鑑賞・映画鑑賞・作品展鑑賞
- * 図書館・クッキング・点茶・生け花・カラオケ・ゲーム

(4)社会活動

- * 地域清掃・リサイクル

(5)所外活動

- * 社会見学（須磨海浜水族園・光悦芸術村しょうざん）
- * 個別活動（近隣施設探訪・公共交通機関利用外出・外食・買物）・知的デイサービスとの交流会

(6)全体活動

- * 季節感を味わう行事（そうめん流し・バーベキュー・クリスマス・もちつき・凧揚げ・豆まき）

その他特記事項

- (1) 利用者2名が病気の為、亡くなる（9月・3月）
- (2) 個別支援計画の策定
- (3) 6月より入浴を中心としたデイサービスの開始
- (4) 医療的ケアについての職員内部研修の実施
- (5) グループホーム利用者の健康支援における調整会議の実施（身障デイ・支援課）
- (6) 看護師確保の困難性継続（賃金・業務内容の乖離）

地域生活支援事業

・障害者ショートステイ事業（児童・知的・身障）

平成16年度の障害者ショートステイ事業における特色は、従事体制の見直しを行い、専任職員6名（支援職員）による完結型ローテーション勤務体制の確立を図り、サービスの質的向上に努めたことである。受入実績は利用総数延べ1,885名で、対前年度比95.6%となり、若干の減少となった。利用者の内訳を見ると、知的障害者1,103名（対前年度比115.6%）、身体障害者62名（対前年比96.9%）、児童692名（対前年度比76.3%）で、支援費制度の障害区分別では区分1の方の利用が1,290名で全体の68.4%、区分2の方が490名で26.0%、区分3の方が105名で5.6%と、より障害の重い方の利用率が高いことが判る。利用種別で見ると、宿泊利用が885名で全体の46.9%、日帰り利用が1,000名で53.1%となっており、さらに、日帰り利用の内訳を見ると、4時間以下の利用が53.1%と半数以上を占め、次いで4時間超8時間以下の利用が39.7%、8時間超の利用が7.2%となっている。また、日帰り利用については、成人と児童が約半々の割合であるのに対し、宿泊利用については成人の利用が687名で、児童の約3.5倍となっている。利用理由の区分を見ると、社会的理由が432名で全体の22.4%に対し、私的理由が1,462名で全体の77.6%で、前年度よりも私的理由の割合が増加している。私的理由の内訳を見ると、第1位が親の就労481名、次いで外出360名、レスパイト（介護疲れの軽減）169名という順位になっているが、外出の中にはレスパイトによるものが比較的多く占められていると推察する。

ショートステイは、その都度、申請に基づき利用していただくことが原則であるが、予約の少ない日については、当該事業をより有効に活用していただくための取り組みとして、必要性や公平性を勘案し、目的を絞り、当該事業から斡旋・調整を行った。次年度も数少ない社会資源を、より有効かつ効率的に利用してもらうべく、運営していきたい。

ア 障害者ショートステイ利用状況総括表（稼働日数＝365日）

項 目	延べ利用人数	月平均利用者数
ショートステイ利用者 総数	1,885名	157.1名
内訳 知的障害者（ライブラ）	1,103名	91.9名
身体障害者（ライブラ）	62名	5.2名
児童（ライブラ）	692名	57.7名
知的障害者（わんすてっぷ）	28名	2.3名
身体障害者（わんすてっぷ）	-	-
平成15年度	1,972名	164.3名
対前年度比率	95.6%	

イ 宿泊利用者・日帰利用者の比率

利用種別	利用人数	全体比率
宿泊利用者	885名	46.9%
日帰利用者	1,000名	53.1%

ウ 1日平均利用者数

平成16年度		平成15年度	対前年度比率
5.2名		5.4名	96.3%
内 訳	宿泊利用	2.4名	109.1%
	日帰利用	2.8名	
		3.2名	87.5%

・知的障害者地域生活援助事業（グループホーム運営事業）

今年度も専従世話人に加えて、居宅介護事業よりホームヘルパーの派遣を受け、入居者個々の介護度に応じた支援を提供し、「安心・快適」な暮らしの場の提供に努めた。

新たな取り組みとしては、グループホームから自宅への帰宅時にご家族の負担軽減を図るため9箇所のホームに対し2コースの送迎体制を組み送迎を実施した。

そのような中で、今年度新たな課題に直面した。それは、日常生活を送る上で高齢化に伴う身体機能の低下により、いわゆる医療的なケアが不可欠となった入居者に対する支援のあり方である。現段階での対応としては、他セクションの看護師等の協力を得ながら安全で適切な支援に努めているが制度上の制約もあり、今後グループホームでの支援における「医療的ケア」の是非論を含めた支援体制について検討が必要である。

また、今後の大きな課題としては、国が提案した「障害者自立支援法案」におけるグループホーム制度の見直し策への対応がある。当該法案の具体的内容を的確に把握すると共に、関係機関等との連携の基、重い障害のある市民が住み慣れた町で主体的に暮らしていくためのグループホームへ繋がるよう検討していきたい。

ア．グループホーム入居者障害状況

項目	療育手帳			身体障害者手帳			支援費障害程度区分	
	A	B 1	B 2	1級	2級	3級以上	区分1	区分2
女性(16名)	10名	5名	1名	2名	1名	3名	13名	3名
男性(20名)	17名	3名	-	5名	1名	4名	16名	4名
全体(36名)	27名	8名	1名	7名	2名	7名	29名	7名

イ．利用日数

項目	平均年齢	運営日数	平均利用日数	最低利用日数	最高利用日数
女性(16名)	33.1歳	365日	222日	53日	365日
男性(20名)	35.0歳	365日	223日	93日	365日
全体(36名)	33.1歳	365日	223日	-	-

ウ．利用率

項目	平均	最低	最高
女性(16名)	60.9%	15.0%	100%
男性(20名)	61.2%	25.5%	100%
全体(36名)	61.1%	20.0%	100%

・箕面市在宅障害者自活訓練事業

平成16年度は、今年度より施行された実施要領に基づき、5月より重度障害者市民自立生活支援棟「わんすてっぷ」にて、箕面市重度身体障害者社会生活訓練事業と実施場所を併用しつつ、定員の20名を対象に個人別実施計画を策定し実施した。(但し、女性1名が実施計画策定後、体調不良を理由に利用待機を申し出られたため実際には19名が利用)実施内容は、経験年数に応じてトワイライト(宿泊を伴わない夕方のトレーニング)及び1～3泊を基本とし、平成15年度より開始したグループホームでの生活をイメージするための集中宿泊訓練には、3名の方が参加された。また、通常の事業以外に、第6つながりの家の新規入居者選定のための集中宿泊訓練を当該グループホームにおいて参加者2名で別途実施した。

支援体制については、今年度も正規職員で専任担当を設置し、登録ヘルパー2名が勤務する体制で実施した。定員を設定したことで、個人別の実施日数が増加したことは改善点といえるが、専任担当者が1名であるため、異性の登録者への対応が不十分な点等の課題が依然としてあり、より個々の利用者に合わせた支援の提供ができるよう、男女2名の支援職員体制等に変更していくことが必要と考えられる。さらに、登録ヘルパーを確保できない日が幾度もあり、登録ヘルパーの募集活動を拡大して新規にヘルパーを確保していくとともに、その質的向上のため、現場での指導だけでなく職員対象研修への参加の推奨やヘルパーを対象とした研修の開催等を行っていくことも重要と思われる。

また、今年度より、前年度の実施時における登録者の状況をまとめ、次年度の実施に反映させるだけでなく、事業説明会での要望に応じてご家族にも報告させていただいた。

なお、今後に向け今年度より施行された実施要領の活用について、その長所・短所のデータを蓄積していき、より使いやすいものに変えていくことが必要と思われる。

* 箕面市在宅障害者自活訓練事業 実施状況総括表

項 目		平成16年度	平成15年度	増 減	対前年度比
登録者数		37人	52人	15人	71.2%
参加者数(実数)		19人	42人	23人	45.2%
稼働 日数	宿泊	129日	127日	2日	101.6%
	トワイライト	0日	31日	31日	0%
延べ 実施人数	宿泊	243人	287人	44人	84.7%
	トワイライト	0人	34人	34人	0%

・箕面市重度身体障害者社会生活訓練事業

本事業も前述の自活訓練同様、今年度より施行された実施要領に基づき、5月より重度障害者市民自立生活支援棟「わんすてっぷ」にて、定員の10名を対象に個人別実施計画を策定し実施した。実施内容は、経験年数に応じてトワイライト及び1～3泊を基本として、自薦ヘルパー利用による実施や、平成15年度より開始したグループホームでの生活をイメージするための集中宿泊訓練を実施し、3名の方が参加された。その中でも、今回初めて自薦ヘルパーを利用しての集中宿泊訓練の実施でもあり、グループホームだけではない他の選択肢の導入に向けて、将来的な展望を持てる機会を設定することができた。

支援体制に関しては、前年度と変わらず、専任正規職員1名と登録ヘルパー2名の体制で実施した。課題としては、自活訓練とほぼ同様であるが、異性の登録者に対する対応の不十分さが生活訓練においては自活訓練でより大きな課題として挙げられる。身体介護の方法についての実地指導は特に重要であり、マニュアルや口頭での指導方法について、現場で従事する登録ヘルパーからも指摘があった。

全体の課題としては、自活訓練と同様、実施要領をより活用しやすいものに変えていくことが必要と思われ、その中でも、5年間の訓練で十分に習熟できなかった登録者への対応の検討が必要と思われる。

* 箕面市重度身体障害者社会生活訓練事業 実施状況総括表

項 目		平成16年度	平成15年度	増 減	対前年度比
登録者数		18人	22人	4人	81.8%
参加者数(実数)		11人	23人	12人	47.8%
稼働 日数	宿泊	90日	100日	10日	90.0%
	トワイライト	8日	14日	6日	57.1%
延べ 実施人数	宿泊	122人	142人	20人	85.9%
	トワイライト	8人	14人	6人	57.1%

・障害児（者）地域療育等支援事業（児童・知的）

本事業は、障害者市民及びその家族が、住み慣れた地域の中で、安心して暮らし続けるために、身近に相談できる窓口として、当事者及び家族が抱える課題に対して、何らかの解決策を関係諸機関と連携を図りながら見出していくことを目的に実施する事業である。

今年度も、在宅で生活されている知的障害児（者）及びその家族に対して、一例ではあるが以下のような支援を行ってきた。

作業所を退所され、在宅状態になっておられた方への、デイサービスの利用に向けた斡旋・調整

在宅の児童で、家族による介護だけでは支えきれない家庭の相談・支援

在宅で引きこもりの方の、作業所への復帰支援

不登校の児童を抱える家族への相談・支援

ショートステイの体験利用やレスパイト利用の斡旋・調整

事例によっては、相談を開始してから支援の終結を迎えるケースばかりではなく、継続的に関わりを持ち続けなければならない方もおられる。また、窓口を設けていても、当事者又は家族から相談に来られることに消極的な方もおられる。従って援助を必要とする方の情報を得れば、当該事業から積極的に出向いていって、関係性を築き、相談に乗っていくことが重要であり、今後もアウトリーチの手法を用いて臨んでいくとともに、実効性のある相談・支援活動に努めたい。

* 障害児（者）地域療育等支援事業 登録者数 平成17年3月31日現在

項目	平成16年度	平成15年度	増減	対前年度比
合計	105名	105名	0	100%

* 障害児（者）地域療育等支援事業実施件数 平成17年3月31日現在

項目	平成16年度	平成15年度	増減	対前年度比
外来療育等指導事業	1件	3件	2件	33.3%
訪問療育等指導事業	40件	35件	5件	114.3%
施設一般指導事業	32件	30件	2件	106.7%
地域生活支援事業	262件	272件	10件	96.3%
合計	335件	340件	5件	98.5%

・ 障害者居宅介護等事業（知的・身障）

平成15年度に新規事業として開始し、本年度も当福祉会が運営するグループホームを利用されている方を中心に、ホームヘルパー及びガイドヘルパーの派遣を行った。

支援費制度が施行され2年目であるが、早々と支援計画書の作成等に見直しがかかり、その事務の対応等に追われることとなった。

そのような中で、昨年度はサービス提供に至らなかった身体障害者への派遣も行うことができサービス提供の裾野が広がり、支援費収入も1,387万円から1,855万円となり大幅な収益の増加を見た。

しかしながら、ヘルパーの量的な不足状況の改善は図れず、担当者及び施設職員のバックアップが不可欠な状態が恒久化しつつある。

次年度はより多くのヘルパーの確保が急務であるとともに、これと平行して利用者の特性(重度の知的障害)から鑑みヘルパーの質的向上を図ることも不可欠である。

また、今年度より地域生活総合支援センター準備室があかつき園内に設けられ、居宅担当者もその拠点を当該準備室に移し、より施設セクションとの連携、協働が強化され総合的な生活支援へさらに意識強化が図られた。

(1) 居宅介護等事業派遣状況総括表

	利用契約者数	延べ派遣件数	延べ派遣時間数
平成15年度	35人	2,400件	3,159.5時間
平成16年度	47人	3,634件	4,336.0時間

(2) 居宅介護等事業派遣状況内訳表

		家事援助	身体介護	移動介護	移動介護(身)
平成15年度	早朝	0時間	1290.5時間	7時間	0時間
	夜間	(0件)	(1,094件)	(5件)	(0件)
	日中	52.5時間 (24件)	988時間 (951件)	572時間 (207件)	249時間 (119件)
	深夜	0時間 (0件)	0時間 (0件)	0時間 (0件)	0時間 (0件)
平成16年度	早朝	0時間	1,700.0時間	83.0時間	19.5時間
	夜間	(0件)	(1,414件)	(101件)	(5件)
	日中	0時間 (0件)	1,374.0時間 (1,440件)	695.0時間 (401件)	441.0時間 (175件)
	深夜	0時間 (0件)	23.5時間 (98件)	0.0時間 (0件)	0.0時間 (0件)

職員研修実施状況

今年度の職員研修は、延べ実施件数64件（対前年度比55.2%）、延べ参加人数167名（対前年度比26.5%）と、前年度に比べ大幅に減少した。これは支援費制度への対応による職員の繁忙と支援サービス低下を招かぬよう現場での実践に精力を傾けるため、集団での研修を取りやめ、個別の研修に切り替えた結果であると考えられる。また、西宮市社会福祉協議会「青葉園」との共同研究である「本人支援プログラム研究会」も継続して研究を重ねた。

本年度は、西南公民館と協働して市民向け講座を開催し、その講師に職員がなることによって職員自身のスキルアップにつながった。

また、新たな試みとして、グランドデザインによる自立支援法案に向けた勉強会組織として、箕面市障害福祉課・商工観光課、箕面市障害者事業団、箕面市社会福祉協議会と協力して「つかめざん」を立ち上げ、地域の社会資源の理解を深め連携強化を図った。

次年度については、資格試験への研修参加の機会を増やし、職員個人の能力アップにつなげ、その成果が利用者サービスの向上につながるよう努めたい。

* 部局別職員参加状況

項 目	平成16年度	平成15年度	増減	対前年度比
法人本部	16名(13件)	46名(22件)	30名	34.8%
箕面市立あかつき園	39名(9件)	246名(36件)	207名	15.9%
箕面市立ワークセンターささゆり	64名(21件)	213名(36件)	149名	30.0%
箕面市立障害者福祉センターささゆり園	16名(7件)	- (-)	16名	皆増
地域生活支援課（準備室含む）	32名(14件)	125名(22件)	93名	25.6%
合 計	167名(64件)	630名(116件)	463名	26.5%

* 主な参加研修（自主研修、本人支援プログラム研究会を除く）

法人本部

政策形成手法研修会、経営パラリンピック、指導的職員研修、ケアマネジメント研修
個人情報研修、不適切行動研修、障害者自立支援法案研修他

箕面市立あかつき園

てんかん講座、社会福祉施設トップセミナー、強度行動障害支援セミナー、グランド
デザイン研修、大阪知的障害者福祉協会評議委員会他

箕面市立ワークセンターささゆり

てんかん基礎講座、プレイケアリーダー講習会、健康支援（蘇生）に関する学習会、
青葉IPP研究会、防火管理者講習会、集団指導者養成教室、ボバース脳性麻痺他職
種講習会、ケアマネジメント研修、エイブルアートワークショップ他

地域生活支援課

全国障害者生活支援研究セミナー、ケアマネジメント研修（上級）、大阪府社会福祉
協議会中級研修、グランドデザイン研修、ケアマネジメント研修、ノロウイルス研修、
みのお人権フォーラム他

視察・実習等受け入れ状況

・視察・実習等受け入れ状況

今年度の視察・実習生等受け入れ状況は、延べ73件、580名の視察・実習生等を受け入れた。前年度に比較し増加しているのは、箕面市障害者福祉センターささゆり園の運営が新たに加わったことが要因と思われる。しかし、次年度養護学校卒業生の保護者等が事前に見学を訪れたことや、箕面市議会議員が見学を訪れるなど、積極的に見学・実習を受け入れた成果であるとする。次年度以降も、法人責務として視察者・実習生を積極的に受け入れ社会貢献及び地域啓発に務めたい。

*部局別視察・実習生等受け入れ状況

項目	平成16年度	平成15年度	増減	対前年度比
箕面市立あかつき園	319名(30件)	184名(13件)	135名	173.4%
箕面市立ワークセンターささゆり	126名(27件)	224名(24件)	98名	56.3%
箕面市立障害者福祉センターささゆり園	93名(5件)	- (-)	93名	皆増
地域生活支援課(準備室含む)	42名(11件)	28名(3件)	14名	150.0%
合計	580名(73件)	436名(39件)	144名	133.0%

注) あかつき園・ワークで重複している視察・実習は、あかつき園で計上

*主な視察・実習等受け入れ先

ア 視察

大阪府立豊中養護学校、大阪府立箕面養護学校、兵庫県立伊丹養護学校、箕面市議会議員、京都教育大学、大阪知的障害者育成会他

イ 実習・見学

大阪府立箕面養護学校・大阪府立豊中養護学校、箕面市立西南小学校、箕面市立第五中学校、箕面市立西南公民館、箕面市職員、箕面市教育委員会、民生委員、住吉作業所、わらしべ福社会他

福祉会主催による研修会開催状況

平成16年度西南公民館 秋の講座(西南公民館との共同開催)
誰もが暮らしやすいまちづくり ~ 障害者市民の立場から ~

・実施目的

ア 地域住民に対し、あかつき園をはじめとする障害者市民が利用される施設の見学や知的・身体・精神それぞれの障害に関する基礎的な知識の獲得、また一部介護面の体験的プログラムの提供により、障害者市民への理解を促進する。

イ 本講座の講師を務めることにより、ミドル職員の資質向上を図る。

ウ 西南公民館主催講座に協力し地域の関係機関との連携を強化する。

・実施内容及び実施日時等

ア オリエンテーション

実施日時：平成16(2004)年10月27日(水)14:00~15:00

実施場所：ワークセンターささゆり2F会議室

・第1回講座

『障害ってどんなこと 障害者施設を見学しながら』

実施日時：平成16(2004)年11月10日(水)13:30~16:00

実施場所：見学：シエスタ、あかつき園、ワークセンターささゆり

講座：ワークセンターささゆり3Fホール

実施内容

・知的障害者基礎講座

講 師：あかつき園：木下

・身体障害者基礎講座

講 師：ワークセンターささゆり：東

・精神障害者基礎講座

講 師：社会福祉法人息吹：栄江氏（職員） 青木氏（利用者）

参加者：市民13名

・第2回講座

『知ろう障害者市民の地域の暮らし 介護してみよう・されてみよう』

実施日時：平成16(2004)年11月17日(水)14:00~16:00

実施場所：ワークセンターささゆり3Fホール

実施内容：「介護する側・される側」双方を経験していただき体験的講座を行った。

講 師：ワークセンターささゆり：東

参加者：市民12名

・第3回講座

『ドクター田中の心のバリアフリー』（公開講座）

実施日時：平成16(2004)年11月24日(水)14:00~16:00

実施場所：西南公民館2F講座室

実施内容：精神障害・知的障害についての医学的説明や、薬物療法のあり方など

講 師：田中メンタルクリニック院長 田中千足氏

参加者：市民 18名

あかつき福祉会職員 6名 計24名

延べ参加者（第1回~第3回）=49名

平成16年度嘱託医及び相談員による勉強会

・実施目的

利用者のご家族を対象とし障害特性に対する支援のあり方や薬物療法に関する講座をおし利用者への理解を図る。

・実施内容及び実施日時等

ア 「親子のより良い関わり方について」

講 師：言語聴覚士 高橋和子氏（当福祉会相談員）

実施日時：12月3日 13:30~15:30

参加者：家族/13名、職員/5名

イ 「知的障害・自閉性障害の医学的理解」

講 師：(医)田中メンタルクリニック 院長 田中千足(当福祉会嘱託医)

実施日時：12月18日 ワーク2階会議室 13:30~15:30

参加者：家族/17名、職員/6名

第2回つるかめざん

「障害者自立支援法案から今後の重度障害者市民の地域生活を展望する」

・実施目的

ア 障害者自立法案に対する理解を図り、今後の事業運営のあり方を検討する。

イ 障害者自立法案の課題等を関係機関等とも共有し、相互の連携強化を図る。

・実施内容及び実施日時等

ア 障害者自立支援法案の概要と問題点

講 師：NPO法人大阪地域生活支援ネットワーク
理事長 北野誠一氏

イ 障害者自立支援法案における相談支援事業と「のまネット西宮」が担う今後の機能・役割

講 師：西宮市社会福祉協議会生活相談・支援センター「のまネット西宮」
センター長 清水明彦氏

実施日時：3月3日 18:20~21:30

実施場所：箕面市立ワークセンターささゆり3階ホール

参加者：行政・関係団体・ご家族等 全54名

講師派遣等（10件）

講師派遣に関しては、西南公民館と協力して市民向け講座を開催した。また、福祉団体や養護学校などの地域生活支援に関する講師依頼が多かった。

* 講師派遣状況

日 時	件 名	依頼団体等	講 師
平成16年4月21日	どうなるこれからの地域生活！	箕面手をつなぐ親の会	総務課長 ささゆり園長
平成16年7月7日	職業体験事前学習	箕面市立第四中学校	総務課長
平成16年8月17日	グループホームにおける支援の実際	大阪府知的障害者育成会	地域生活支援センター準備室職員3名
平成16年9月30日	グループホーム制度勉強会	箕面市肢体不自由児者父母の会	地域生活支援センター準備室長
平成16年12月16日	懇談会	箕面市肢体不自由児者父母の会	地域生活支援課長
平成16年11月10日	西南公民館講座（身体障害者の概念）	西南公民館	ワークセンターささゆり職員1名 あかつき園職員1名
平成16年11月17日	西南公民館講座（介護されてみよう）	西南公民館	ワークセンターささゆり職員1名
平成17年1月15日	地域懇談会	箕面養護学校PTA	地域生活支援課長
平成17年1月17日	個別支援計画について	大阪府身体障害者地域リハビリテーション協議会	ワークセンターささゆり所長
平成17年2月15日	個別福祉懇談会	箕面養護学校	地域生活支援課長

ボランティア受入状況

施設名	参加人数	活動内容等
あかつき園	155名	日中活動（外出、手漉きはがき作成、園芸他） 作業ボランティア（製袋作業他）、創作活動等
ワークセンターささゆり	171名	プール活動、作業療法、音楽療法、創作活動、 音楽活動（コンサート）、行事活動（外出等）
障害者福祉センターささゆり園	43名	音楽プログラム、社会見学、全体行事
合 計	369名	

社会福祉法人あかつき福祉会 役員名簿

・ 理事

平成17年3月31日現在

役職名	氏 名	選 出 団 体	役職名等	区 分
理事長	庄司 修三郎	箕面ロータリークラブ	会長	学識経験者
副理事長	印藤 政治	箕面市身体障害者福祉会	副会長	社会福祉団体
常務理事	稲治 昂	社会福祉法人あかつき福祉会	箕面市立あかつき園長	施設長
理 事	辰己 雅彦	社会福祉法人箕面市社会福祉協議会	会長	学識経験者
理 事	中西 健雄	箕面市民生委員児童委員協議会	民生委員児童委員	学識経験者
理 事	近藤 俊一	元 社会福祉法人箕面市社会福祉協議会 常務理事		学識経験者
理 事	辻 三紀	箕面市肢体不自由児者父母の会	幹事	社会福祉団体
理 事	橋口 さよ子	箕面手をつなぐ親の会	会長	社会福祉団体
理 事	野津 禮子	社会福祉法人 暁光会 あかつき特別養護老人ホーム	施設長	社会福祉施設
理 事	和田 久實	社会福祉法人 翠明社 特別養護老人ホーム 照葉の里	施設長	社会福祉施設
理 事	坂田 孝	箕面市健康福祉部	総合保健福祉センタ - 次長	行政関係

・ 監事

平成17年3月31日現在

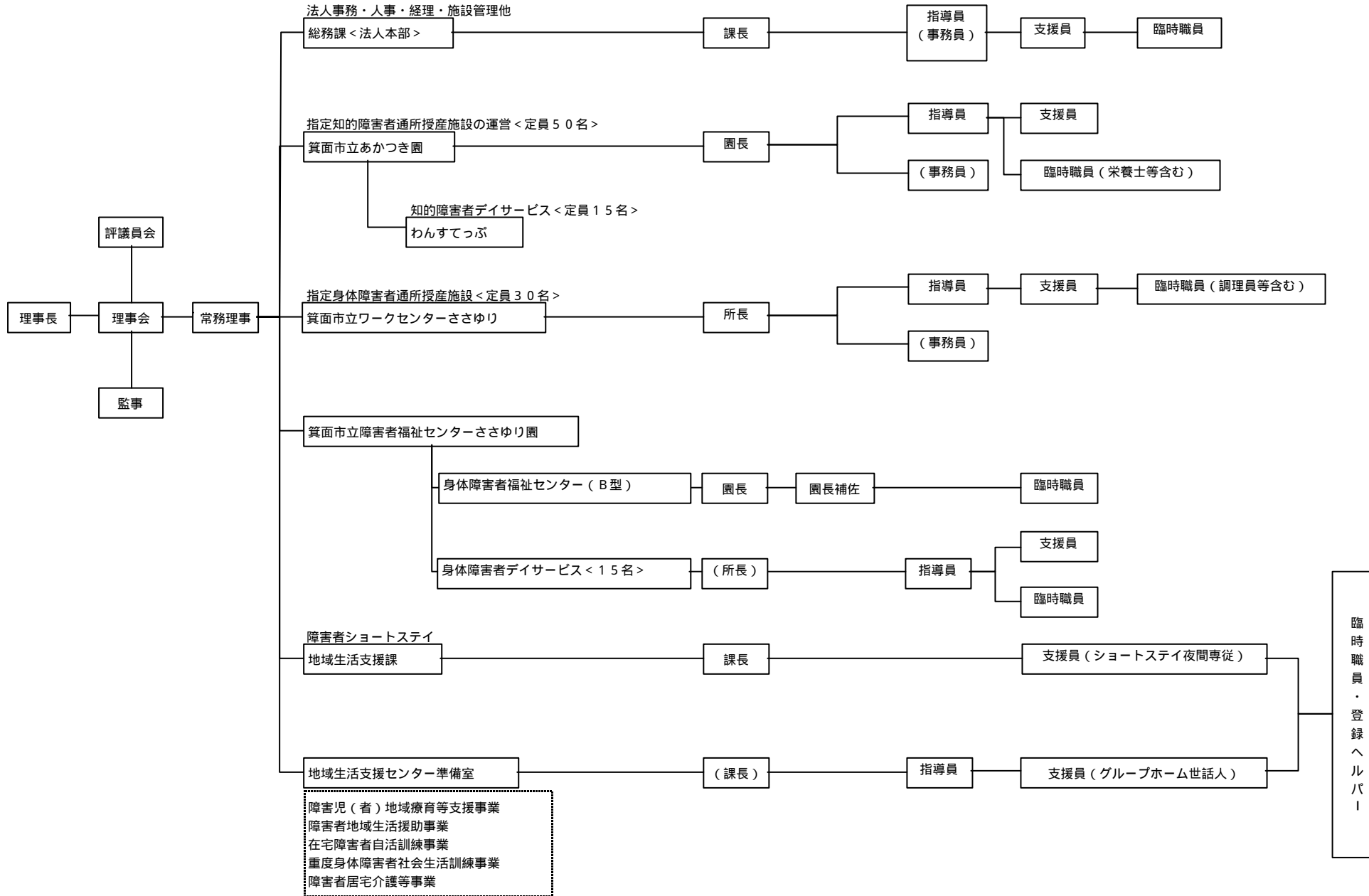
監 事	田中 輝夫	元 あかつき福祉会 評議員	(社福)箕面市社会福祉協議会 萱野小地区福祉会 副会長	学識経験者
監 事	吉田 直彦	箕面市出納室	室長	行政関係

社会福祉法人あかつき福祉会 評議員名簿

平成17年3月31日現在

氏名	出身団体	役職名等	区分
奥 政則	社会福祉法人箕面市社会福祉協議会	副会長	福祉団体
森 幸男	社会福祉法人箕面市社会福祉協議会	西南小地区福祉会会長	福祉団体
石田 彦嗣	箕面市民生委員児童委員協議会	西南小地区	福祉団体
吉田 照夫	財団法人箕面市障害者事業団	事務局長	福祉団体
濱口 忠	箕面市身体障害者福祉会	会長	福祉団体
名淵 須和子	箕面手をつなぐ親の会	副会長	福祉団体
井上 千都	箕面市肢体不自由児者父母の会	会長	福祉団体
植田 恵美子	社会福祉法人息吹	理事長	福祉団体
川端 健高	社会福祉法人大阪府障害者福祉事業団	総務課長	福祉施設
小山 隆	同志社大学	教授	学識経験者
中井 満州男	箕面ロータリークラブ	(有)中満商事デューク書店 代表取締役	学識経験者
泉 道彦	元社会福祉法人あかつき福祉会	元あかつき園園長	学識経験者
西田 俊次	箕面商工会議所	常議員	学識経験者
立見 五十七	箕面商工会議所	常議員	学識経験者
瀧 洋二郎	浅岡・瀧法律会計事務所	弁護士	学識経験者
奥村 慶治	元 箕面市職員	保護司	学識経験者
澤田 榮三	社会福祉法人箕面市社会福祉協議会	西南小地区福祉会副会長	学識経験者
伊東 昭巳	大阪府立箕面養護学校	教諭	行政関係
清水 多實子	大阪府池田保健所（地域保健課）	保健補佐	行政関係
大溝 憲久	大阪府池田子ども家庭センター（健全育成課）	課長	行政関係
辻 広志	箕面市人権文化部（人権推進課）	課長	行政関係
吉田 功	箕面市教育委員会教育推進部（学校教育課）	担当主査	行政関係
藤野 美代子	箕面市健康福祉部（障害福祉課）	課長	行政関係

平成16(2004)年度 社会福祉法人あかつき福祉会 組織図



平成16(2004)年度社会福祉法人あかつき福祉会 職員内訳

*職員内訳詳細

平成17年3月31日現在

部 局 名	正規職員	支援職員	臨時職員	合 計
法人本部	1名	1名	1名	3名
箕面市立あかつき園（わんすてっぷ）	6名	8名	16名	30名
箕面市立ワークセンターささゆり	5名	5名	13名	23名
箕面市立障害者福祉センターささゆり園	3名	3名	8名	14名
地域生活支援課	1名	5名	1名	7名
地域生活支援センター準備室	3名	10名	1名	14名
合 計	19名	32名	40名	91名

注1) 正規職員数には、箕面市出向者1名を含む

注2) 支援職員数内訳(32名、障害者職員2名を含む)

法人本部1名、あかつき8名、ワーク5名、ささゆり園3名

地域生活支援課(ショートステイ)5名、

地域生活支援センター準備室(グループホーム9名、居宅1名)

注3) 臨時職員数には、派遣会社職員、バス添乗等の短時間勤務職員を含む

注4) その他、登録ヘルパー 46名